

7 一人ひとりの理解の仕方

一人ひとりと向き合う

授業中、教員は教室内の多数の生徒と向き合っていますが、生徒は多くの場合、一人の教員と向き合っています。ですから、教員は一人ひとりの生徒と向き合っているという意識をもつことが大切です。生徒一人ひとりと向き合い、個々の生徒を理解することは、「生徒の実態に応じた授業」をつくることにつながります。

相手の立場に立って考える

授業には情報を伝え、理解を得る場面があります。

必要な情報を正しく伝えられたのか、伝えたいことを相手理解できたのかを振り返ったり、相手の立場に立って考えたりすることが大切です。 → 1章-3

一人ひとりの学習観・学習スタイル

一人ひとりの「学習観」や「学習スタイル」は、高等学校に入学するまでの9年間の学習経験によって大きく異なります。

教員が生徒たちの学習観や学習スタイルを知っておくことはもちろんですが、生徒自身も自らの学習観や学習スタイルの傾向を知ることで自分に合った学び方を見つけることができます。

生徒が自分の学び方についてメタ認知し、試行錯誤することができる機会を学習活動に取り入れましょう。

個別支援が
必要な生徒
への対応を
考えよう

一人ひとりの正しい理解が大切！

認知の偏りや集中の難しさ、社会性の育ちにくさなど、困難な局面だけに注目し、できるようにと励ますだけでは、うまくいかないことがあります。

一人ひとりの生活や文化的背景、経験やつまづきを、対話等を通して理解し、持っている力を生かそうという生徒の意欲を高めさせることができるよう、継続的で一貫した支援をしていくことが必要です。

学習観の違い

例えば、「どのように取り組むか考えてから勉強することが効果を上げる」と考える生徒もいれば、「ミスや失敗をしても良いからまずは試してみて、その反省を後の学習にいかすことが大切だ」と考える生徒もいます。また、「意味を考えるよりも、まず丸暗記してしまうことが重要だ」という生徒もいれば、「とにかく多くの問題を解くことが最も大切だ」と考えたり、「どうしてこうなるのかよりも、とにかく正答であれば良い」と考えたりする生徒もいます。

生徒の持っている学習観と授業のねらいが合わないと、学習が成り立たないこともあります。その際には、生徒の学習観を認めた上で、望ましい学習観を示すと良いでしょう。

学習スタイルの違い

生徒の見え方や聞こえ方、感じ方、記憶や理解の仕方等の認知の特性によっても、個々の学習スタイルは異なってきます。個々の学習スタイルを踏まえて指導に生かすことが大切です。

- 見て理解することが得意な生徒
…絵や写真、カードや映像、板書など視覚支援を活用する。
- 手順が明確でない活動を正確に行うことが難しい生徒
…板書やカードなどで活動の順序を示し、見通しをもたせる。
- 二つのことを同時にするのが苦手な生徒
…指示や提示は一つずつ行う。
- じっとしていることが苦手な生徒
…音読や書字など体の一部分を動かす活動を取り入れる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」

生徒の実態を把握していくことは、生徒の学び方の理解につながります。それに応じて授業の流れや学習活動を変化させることで、生徒の「主体的・対話的で深い学び」を促すことは、「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」における「個別最適な学び」につながります。「協働的な学び」も取り入れながらより良い学習活動を組み立てましょう。 → 序章

☆学習スタイルとは

学習スタイルとは、生徒が学習に取り組むときに好んで用いる方法のことです。巻末の参考資料-1に「教室の中での『困り（特性）』のチェックリスト」、「学びに関する『困り（特性）』のチェックリスト」がありますので、個々の生徒の把握の際の参考にしてください。



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の参考資料

- 『高等学校学習指導要領解説 総則編』平成30年7月 → 学習指導要領のダウンロードは P122へ
- 「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」令和3年1月 中央教育審議会
- 「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」
令和3年3月 文部科学省初等中等教育局教育課程課



「『令和の日本型-」



「学習指導要領の趣旨の-」